

見えない相手

新型コロナウイルスが世界を揺さぶっています。日本でも各地で感染者が確認されています。ただ、まだ日本は政府の封じ込め作戦が功を奏し、感染者の追跡ができてきていることもあって、一定の管理ができています。

■市の新型コロナウイルスへの対応

市も、国の要請を受け、市内へのウイルス流入を防ぐために一部公共施設の休館や小中学校の卒業式の祝式典縮小の措置を講じてきました。正直なところ、卒業式については、子どもや保護者の気持ちを考えると残念でたまりませんでしたが、ですが、誰しもが悔しい思いをしなから判断したことであり、その苦渋の選択をご理解いただきたいと思えます。

ここで、この原稿を書いている3月半ばまでの市の動きを簡単にお伝えします。

まずは2月13日に市役所内に庁内連絡会議を設置しました。2月28日に政府からの自粛要請を受けて庁内連絡会議を警戒本部に切り替え、情報集約の一元化と指揮系統の統一化、政府要請への対応を決定しました。そして、3月7日に前日に県内での初の感染者確認を受けて直ちに対策本部を設置しました。

同本部では、同日までの取り組みを再検討し、加えて市民生活や市内の商工業

への影響についての調査結果の確認を行いました。そこでは、特に自粛による市内経済への影響について深く考察することの必要性が再確認されています。

飲食店や宿泊等のサービス・観光産業は、人が行き交うことで成り立つ商売です。いまの市内イベントや年度末行事の中止・キャンセルによる人の流れの停滞が経営に直結してくるのは明らかです。

先月号のコラムにも書きましたが、私は市内の商店等を社会資源の一つと捉えています。行政としてできることは限られるかもしれませんが、市民生活を守るという観点からも市内業者に対する何らかの取り組みはしなければならいと思っています。

■「根拠のないデマ」に注意（3/11 荘内日報の見出し）

多くの皆さんがいろいろな情報入手されていると思います。私がお願したいのはデマに惑わされないでもらいたいということです。厚労省などの専門的な公的機関が公表している内容に耳を傾けていただきたいと思えます。

そのうえで今回の事態から一言付け加えるならば、それは不確かさが人々の不安を増長させているということです。例えばインフルエンザです。きわめて毒性の強いウイルスです。にもかかわらず、

人々は今回のようには慌てません。それは、毎年決まった時期に流行する、既に多くの人が免疫力を持っている、治療法や予防法が確立している、という予測可能な内にあるからです。他方で、私たちが新型コロナウイルスを不安に思うのは、治療・予防方法が確立されておらず、不確かさが大きいからです。

そして、この不確かさがもたらすものは何かと考えたとき、不気味に姿をあらわしてくるのが「デマ」なのだと思います。

私たちは冷静にならなければなりません。SNSで広まったトイレットペーパー騒動は社会がヒステリー化したために起こったものです。もちろん油断は禁物です。しかしながら、過剰な反応はパニックを生み出します。ヒステリー状態に陥った人間ほど怖いものはありません。

現在、皆さんの冷静な対応により市内は平穏です。是非いまの状態を持続できるように、引き続き皆さんのご協力をお願いします。



にかほ市長
市川雄次